生まれ育ったのが四国八十八カ所のお寺の近くだったので、巡礼の方をいたわり、もてなす「お接待」の習慣がごく身近にありました。人のために何かをしたいという思いは、そのころに培われたのだと思います。

二十年以上前、「仮面ライダー」をやっていたころは、まだ「ボランティア」という言葉はあまり知られていませんでしたが、全国を回るイベントの合間に、病院や施設を訪問していました。イベントに来たくても来られない子供たちから「会いたい」という手紙が来るからです。大上段に構え、チャリティーと銘打って行ったわけではなく「近くまで来たんだから、会いに行こう」というような気持ちでした。それでも、訪問の後、リハビリに励むようになった子が歩けるようになったという手紙をもらった時はうれしかったですね。

最近は、グローバル・レインボーシップという民間ボランティア団体の理事として、ガーナやスーダン、クウェートなど、主に難民キャンプのある場所をメンバーと共に訪れています。ボランティア活動とは、一方的に何かを与えることではありません。例えば、過酷な条件の中で必死に生きる子供たちの目の輝き、その生命力には言葉にならない感動を覚えます。喜びの感動ではなく、痛みや苦しみが伴う、心が揺り動かされる強烈な感動です。ボランティア活動をすることで教えられ、得られるものは計り知れません。

海外の子供たちを見ていると、同時に日本の子供たちのことにも思いが及びます。彼らは、他人の痛みが分からなくなっています。自己中心的になりすぎて、モノがあふれていても常に不満があるのです。それでも阪神・淡路大震災のときには、多くの若者が全国からボランティアとして駆け付けました。やはり、どんな世代にも、他人を思いやる「良心」はあるのだと感じました。これから必要なのは、その良心を引き出し、導いていく教育だと思います。

人は一人では生きられません。これからは、人と人との助け合いが一層必要な世の中になってきます。札幌にも、市民によるさまざまな活動があるということで、とてもうれしく思います。ささやかなことでも、個人や会社、行政、みんながそれぞれの立場でできることをやれば、二十一世紀の日本は必ず良くなっていくでしょう。私も俳優という立場で、肉体と精神の力の及ぶ限り、これからも自分にできることを精一杯成し遂げようと思っています。(談)

1999年5月、トルコにて子供たちと

人は一人では生きられません。お互いに助け合うことで、未来は必ず良くなっていくでしょう。

藤岡　弘（俳優）　FUJIOKA HIROSHI

1946年2月19日、愛媛県生まれ。空手、柔道、刀道などの有段者。テレビ「仮面ライダー」「あすか」、ハリウッド映画などにも出演。仮面ライダー出演時より全国の障害者施設を訪問するなどボランティア活動に携わり、阪神・淡路大震災と北海道南西沖地震（奥尻島）で被害を受けた子供たちの交流会やシンポジウムにも参加。現在は国際ボランティア団体「NGOグローバル・レインボーシップ」の理事として、文化交流・ボランティア活動で世界各国をメンバーと共に訪れ、義援金、義援物資を贈るなどの活動中。

C O N T E N T S

●巻頭メッセージ　藤岡 弘 …… 1
知っていますか？ 市民活動 …… 2
暮らしのそばで、こんな市民活動 …… 5
●座談会
「市民活動がつくるこれからのさっぽろ」 8
市民活動の運営を支えるには？ …… 12
めざすはパートナーシップ …… 14
●提言（北海道大学教授 宮脇 淳）
市民活動の今後を展望するとき、「ポスト福祉国家」の認識を持つことが重要である。 …… 15
●おわりに 市長メッセージ …… 16

特集広報　PARTNERSHIP SAPPORO

パートナーシップさっぽろ2000

一人ひとりができることを
少しずつ積み重ねていけば
それは大きな力になります。
一緒にこの街の未来を育てよう。

特集　みんなが、まちのサポーター。

市民活動とまちづくり